

令和元年度大阪府調査の結果について

(子どもの貧困関連項目抜粋)

1 調査の概要について

■調査結果概要について

「大阪府子ども総合計画」の中間見直しにかかる調査の結果より、子どもの貧困に関連する項目を抜粋し、困窮度によるクロス集計を実施

■調査の手法

インターネット調査

■調査時期

令和元年6月

■対象

- ①就学前の子どもをもつ保護者
大阪府内 2,100人

- ②就学後から18歳までの子どもをもつ保護者
大阪府内 1,200人

2-1 昨年1年間の家計の収支状況

● 就学前、就学後とも赤字家計の世帯は約4分の1で、収入は400～500万円未満の層が最も多い。等価可処分所得^(※)の中央値及び中央値の半分未満の割合は、「就学前275万円・8.9%」、「就学後325万円・11.1%」となっている。

●就学前

昨年1年間の家計の収支状況	割合(%)
黒字である(貯蓄できている)	44.1
赤字である (預貯金のとりくずし・金融機関からの借入等により支出を賅っている)	23.0
赤字でもなく黒字でもない	25.0
わからない	7.9

昨年1年間の収入	割合(%)	昨年1年間の収入	割合(%)
100万円未満	2.2	700-800万円未満	9.0
100-200万円未満	3.4	800-900万円未満	6.8
200-300万円未満	7.0	900-1,000万円未満	4.4
300-400万円未満	14.0	1,000-1,200万円未満	4.0
400-500万円未満	17.8	1,200-1,500万円未満	1.7
500-600万円未満	15.6	1,500万円以上	1.7
600-700万円未満	12.4		

等価可処分所得 ^(※) の中央値	中央値の半分未満の割合
275万円	8.9%

(※)1人あたりの可処分所得
(世帯の可処分所得÷世帯員数の平方根)

本調査における
「相対的貧困層」と定義

●就学後

昨年1年間の家計の収支状況	割合(%)
黒字である(貯蓄できている)	40.0
赤字である (預貯金のとりくずし・金融機関からの借入等により支出を賅っている)	25.3
赤字でもなく黒字でもない	24.1
わからない	10.6

昨年1年間の収入	割合(%)	昨年1年間の収入	割合(%)
100万円未満	2.9	700-800万円未満	11.3
100-200万円未満	2.2	800-900万円未満	8.7
200-300万円未満	4.8	900-1,000万円未満	7.9
300-400万円未満	9.0	1,000-1,200万円未満	6.0
400-500万円未満	13.7	1,200-1,500万円未満	3.1
500-600万円未満	13.6	1,500万円以上	4.2
600-700万円未満	12.7		

等価可処分所得 ^(※) の中央値	中央値の半分未満の割合
325万円	11.1%

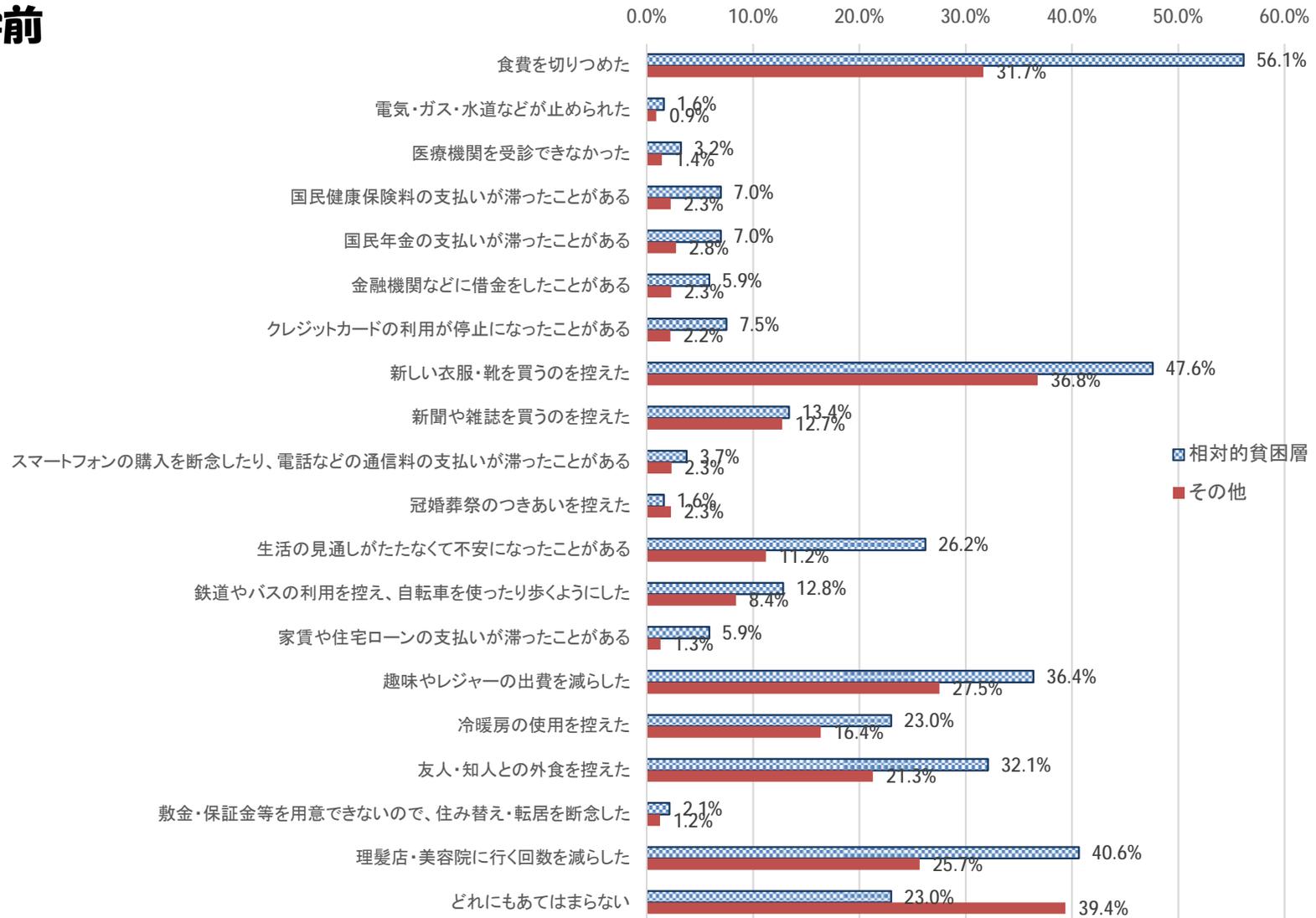
(※)1人あたりの可処分所得
(世帯の可処分所得÷世帯員数の平方根)

本調査における
「相対的貧困層」と定義

2-2 半年以内に経済的な理由で経験したこと(就学前)

●「食費を切りつめた」「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」において、相対的貧困層とその他の層の差が特に大きくなっている。

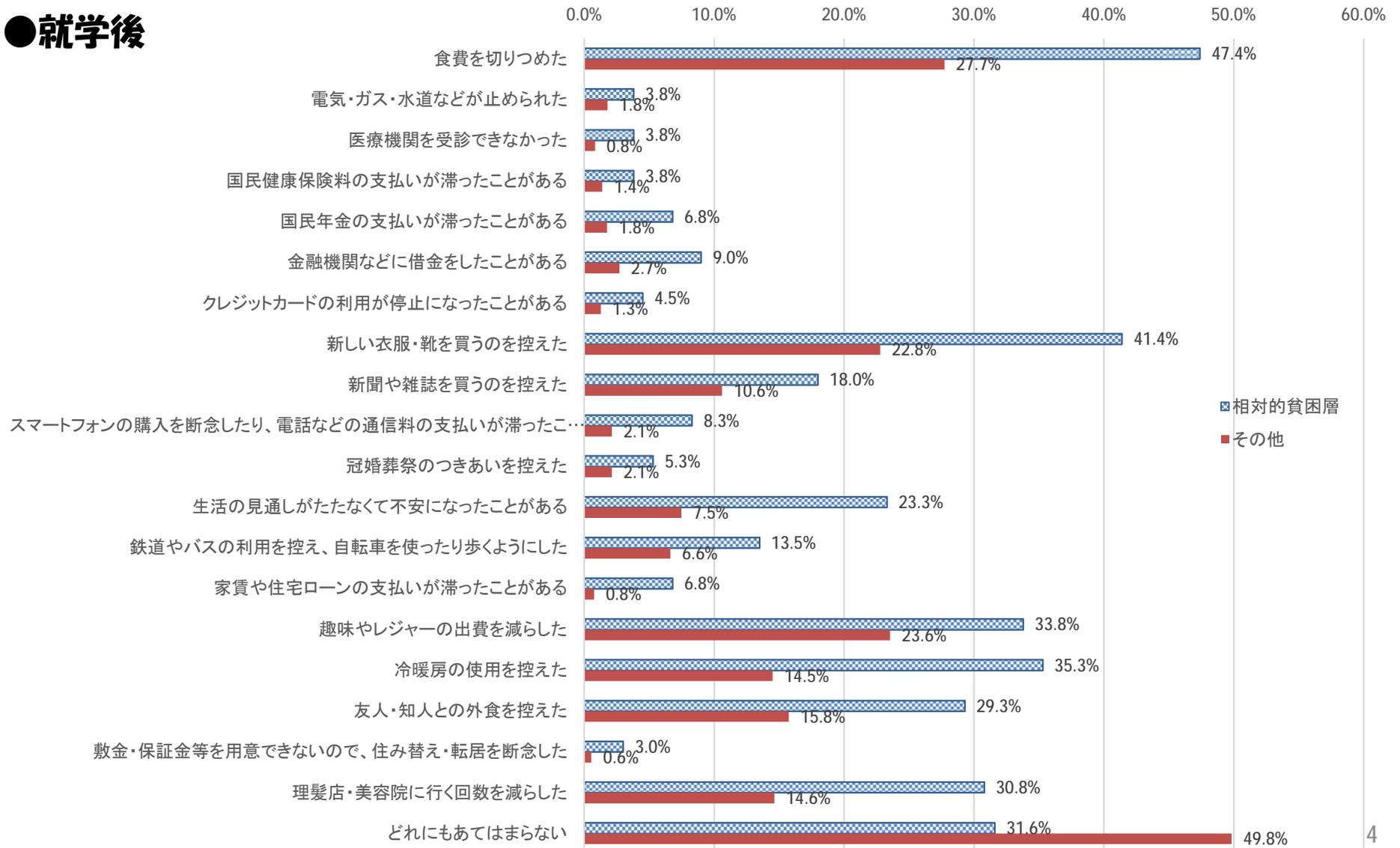
●就学前



2-3 半年以内に経済的な理由で経験したこと(就学後)

●「冷暖房の使用を控えた」「食費を切りつめた」「新しい衣服・靴を買うのを控えた」において、相対的貧困層とその他の層の差が大きくなっている。

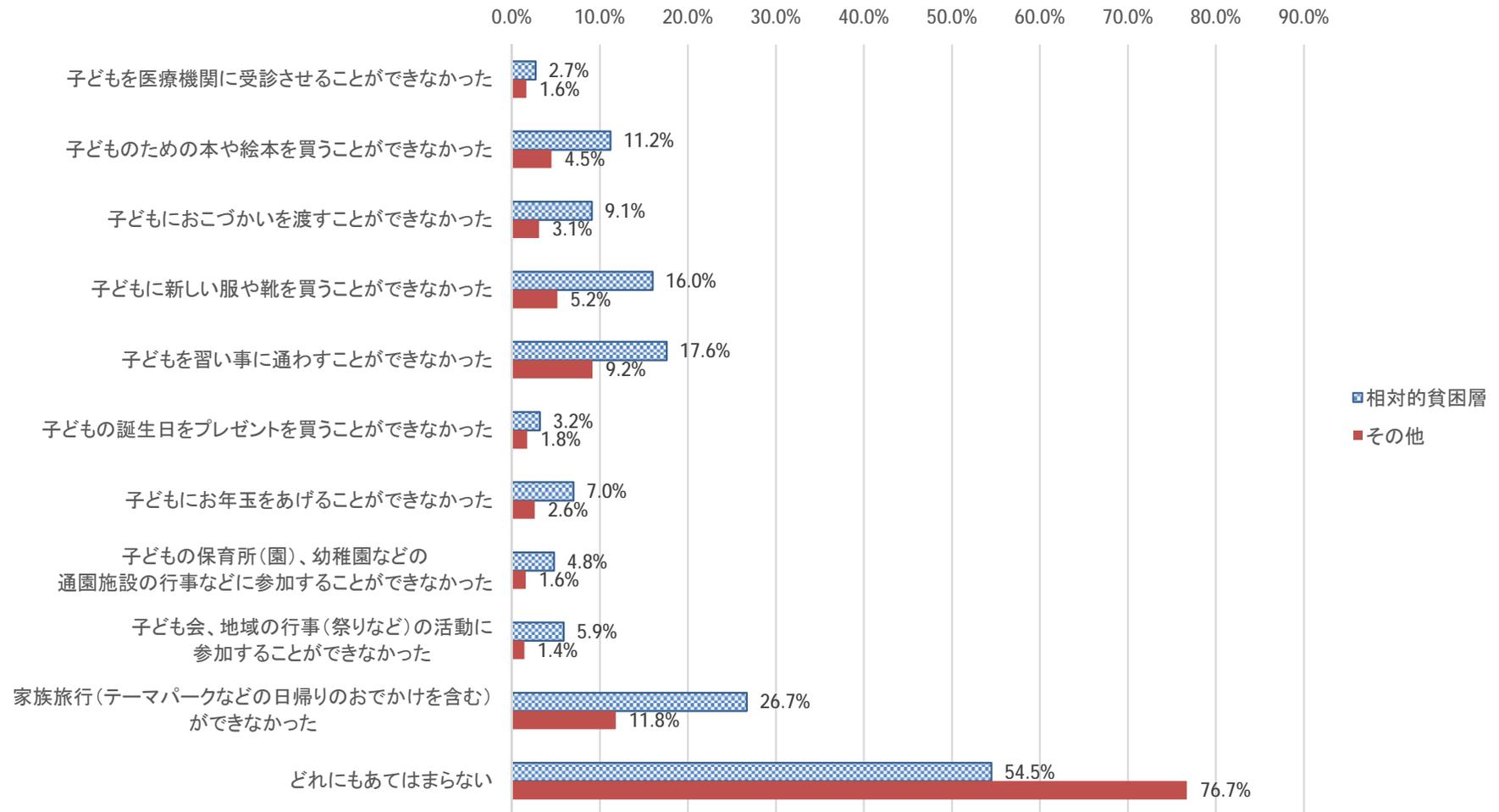
●就学後



2-4 過去1年以内に経済的な理由で子どもに対してできなかったこと(就学前)

●「家族旅行やおでかけができなかった」「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」において、相対的貧困層とその他の層の差が特に大きくなっている。

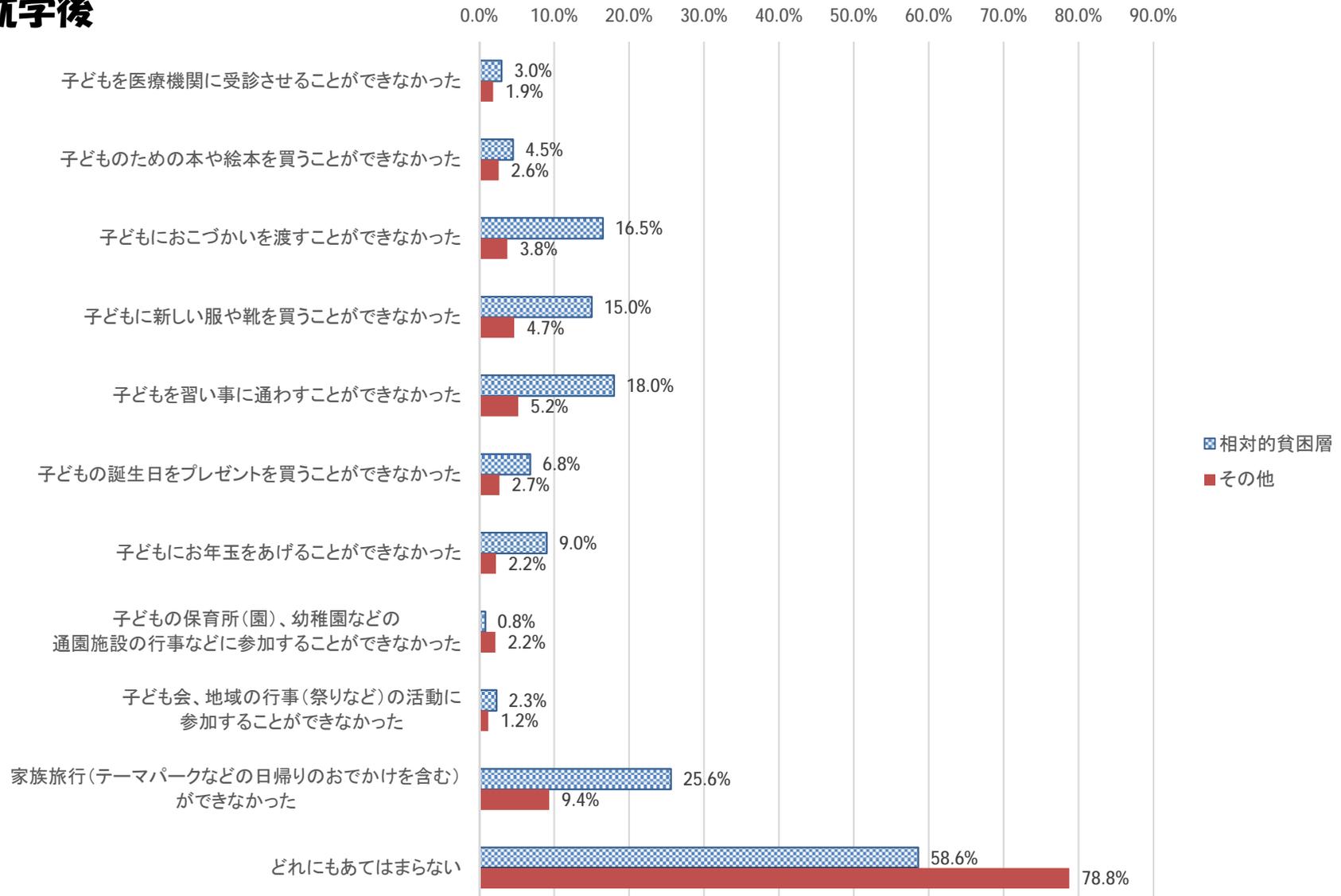
●就学前



2-5 過去1年以内に経済的な理由で子どもに対してできなかったこと(就学後)

●「家族旅行やおでかけができなかった」「子どもを習い事に通わすことができなかった」「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」において、相対的貧困層とその他の層の差が特に大きくなっている。

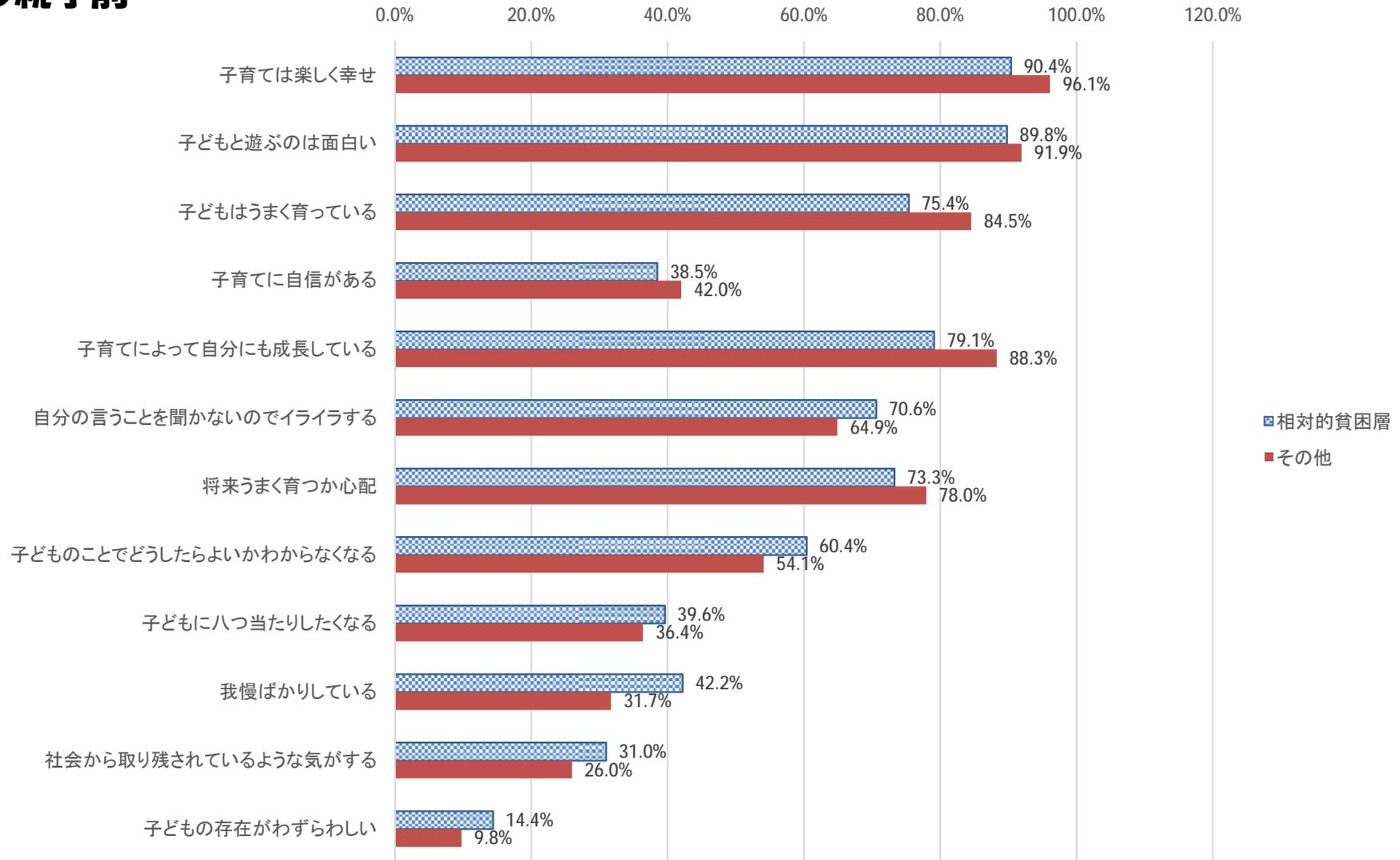
●就学後



2-6 子育てについて、日頃どのように感じているか(就学前)

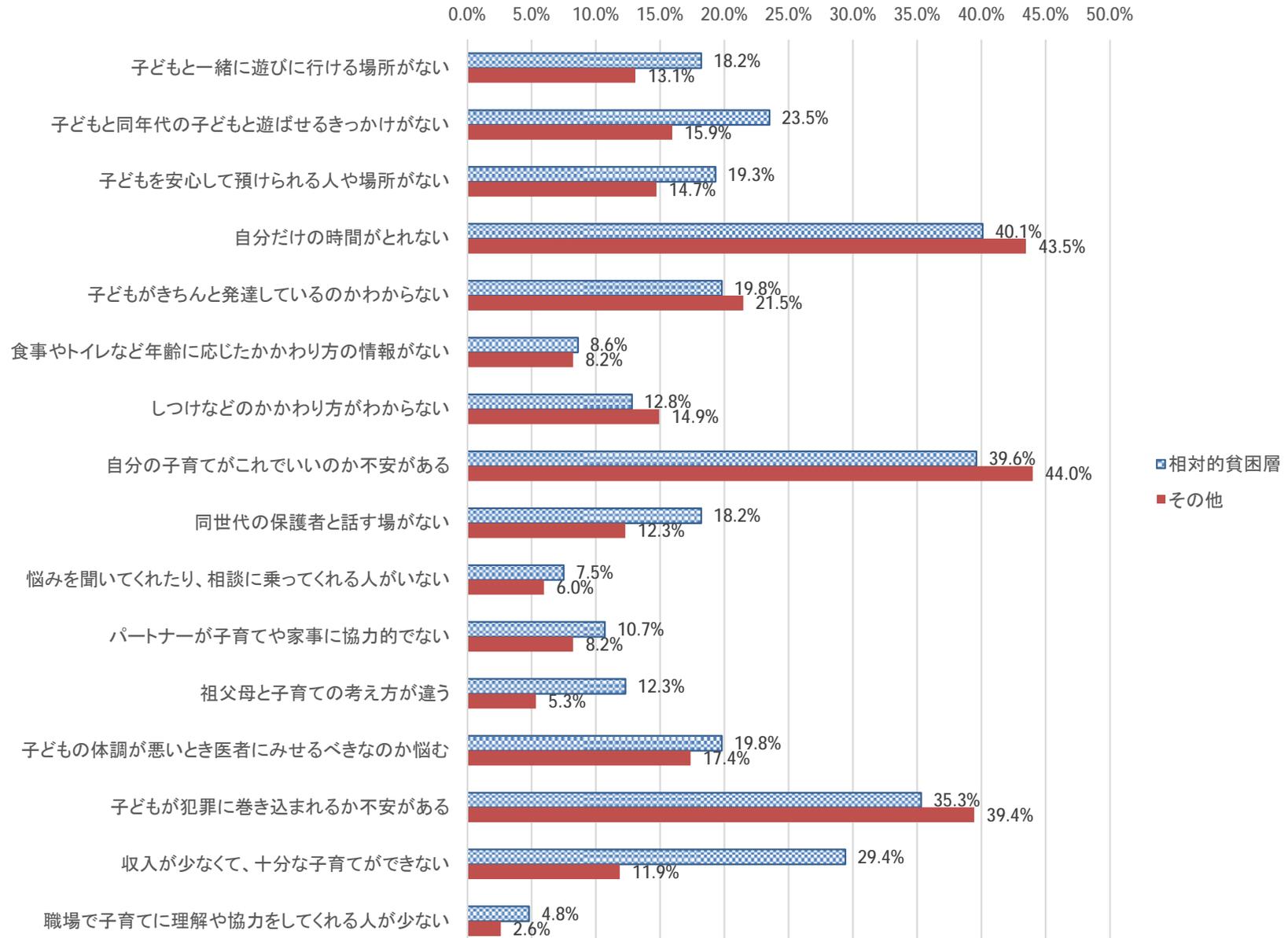
● 全ての項目について大きな差は見られないが、相対的貧困層はその他の層と比べて、「子どもはうまく育っている」が約1割少なく、「我慢ばかりしている」が約1割多くなっている。

●就学前



2-7 子育てをされていて困っていること(就学前)

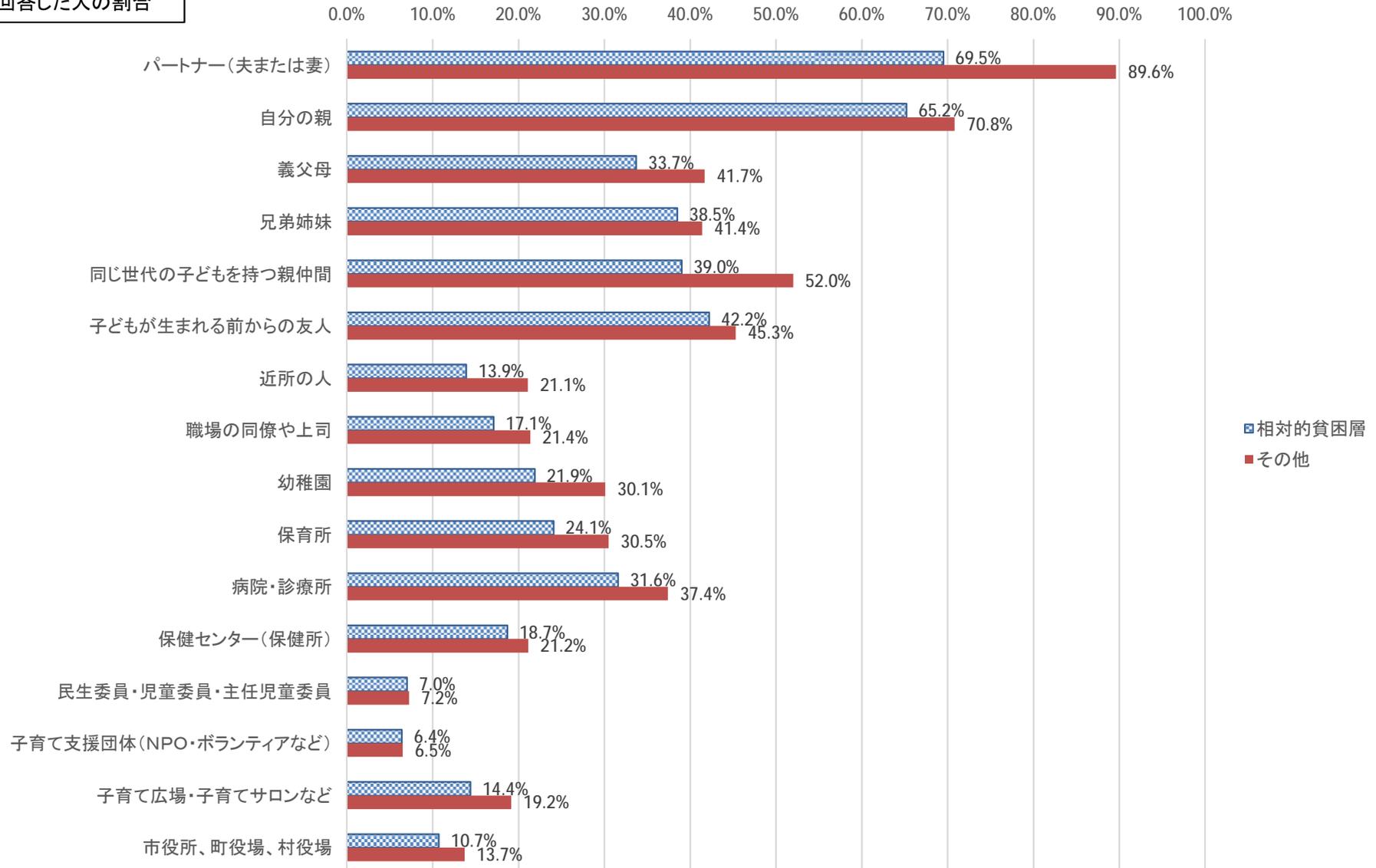
● 相対的貧困層はその他の層に比べ、収入の他に「同年代の子どもと遊ばせるきっかけがない」「祖父母と子育ての考え方が違う」「同世代の保護者と話す場がない」の割合が高い。



2-8 子育てについて相談する上で、身近にある(感じられる)存在(就学前)

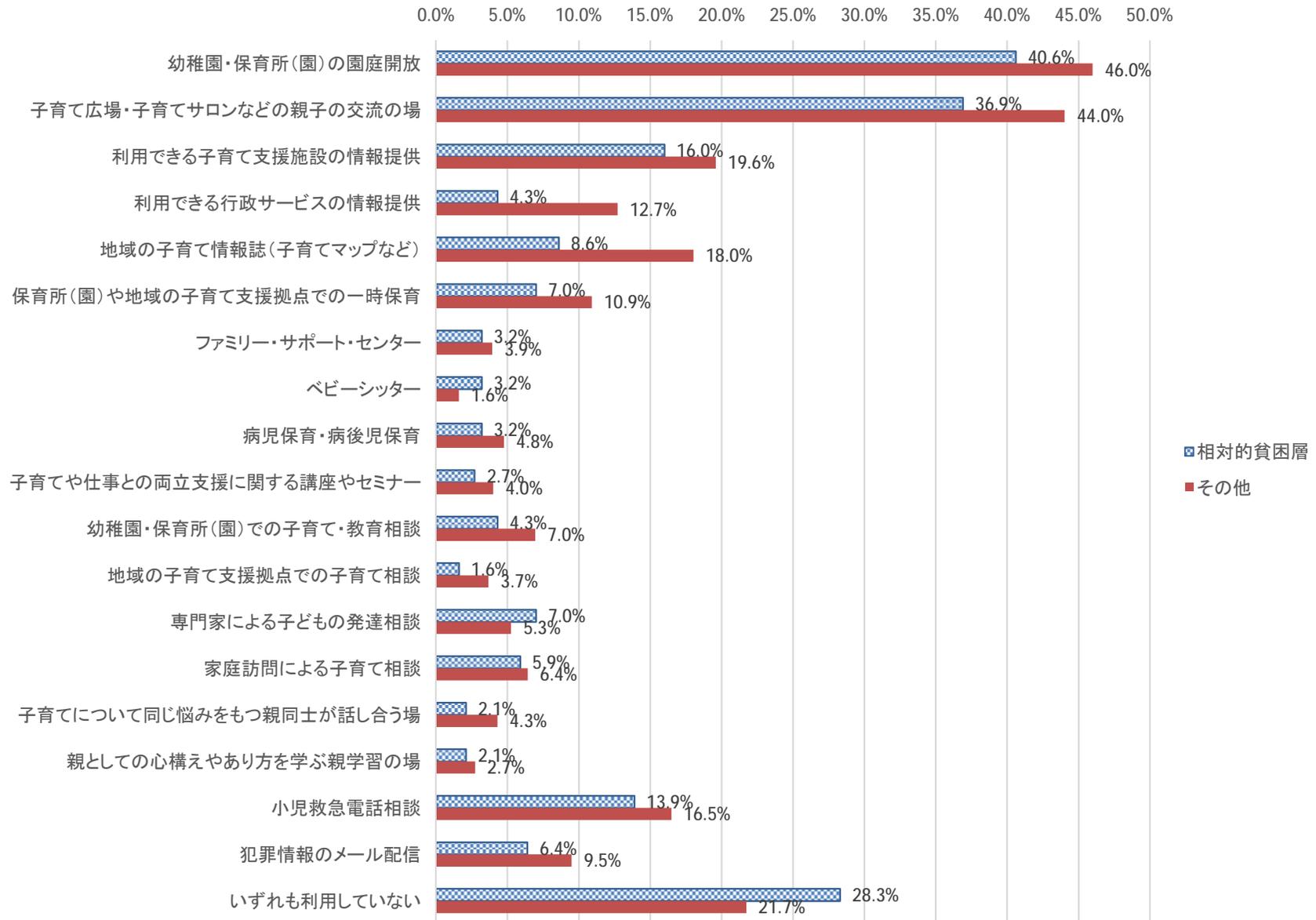
● 全ての項目において、相対的貧困層はその他の層に比べ、身近にあると感じている割合が低くなっている。

「身近」「やや身近」と回答した人の割合



2-9 これまでに利用したことがあるサービス(就学前)

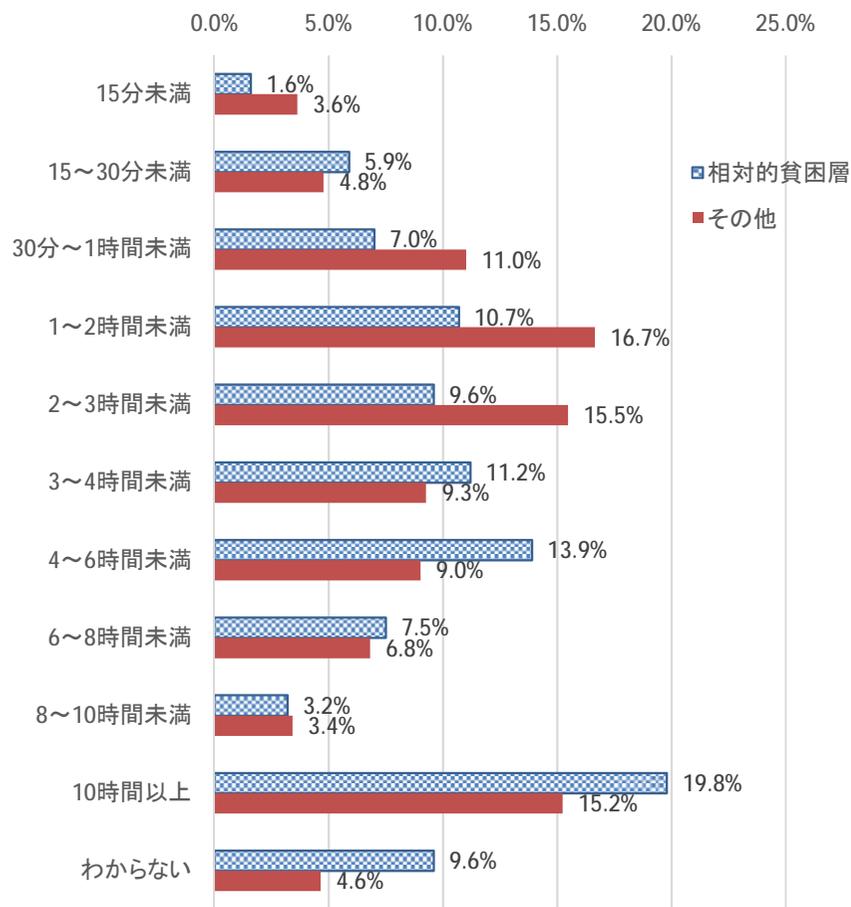
● ほとんどの項目において、相対的貧困層はその他の層に比べ、利用したことのある割合が低くなっている。



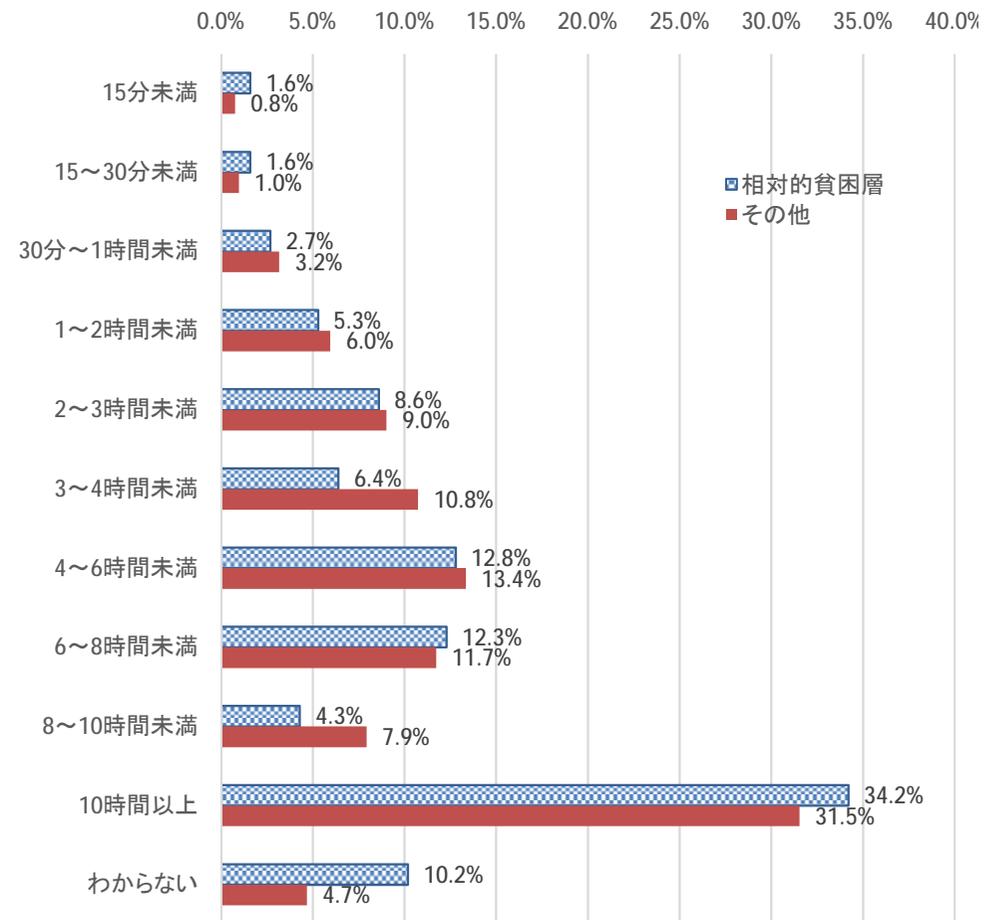
2-10 同居している大人の人が子どもと何かをしたり相手をしている時間(就学前)

● 大きな差は見られないが、平日については、相対的貧困層がその他の層に比べ、子どもと過ごす時間が長い傾向にある。

● 平日

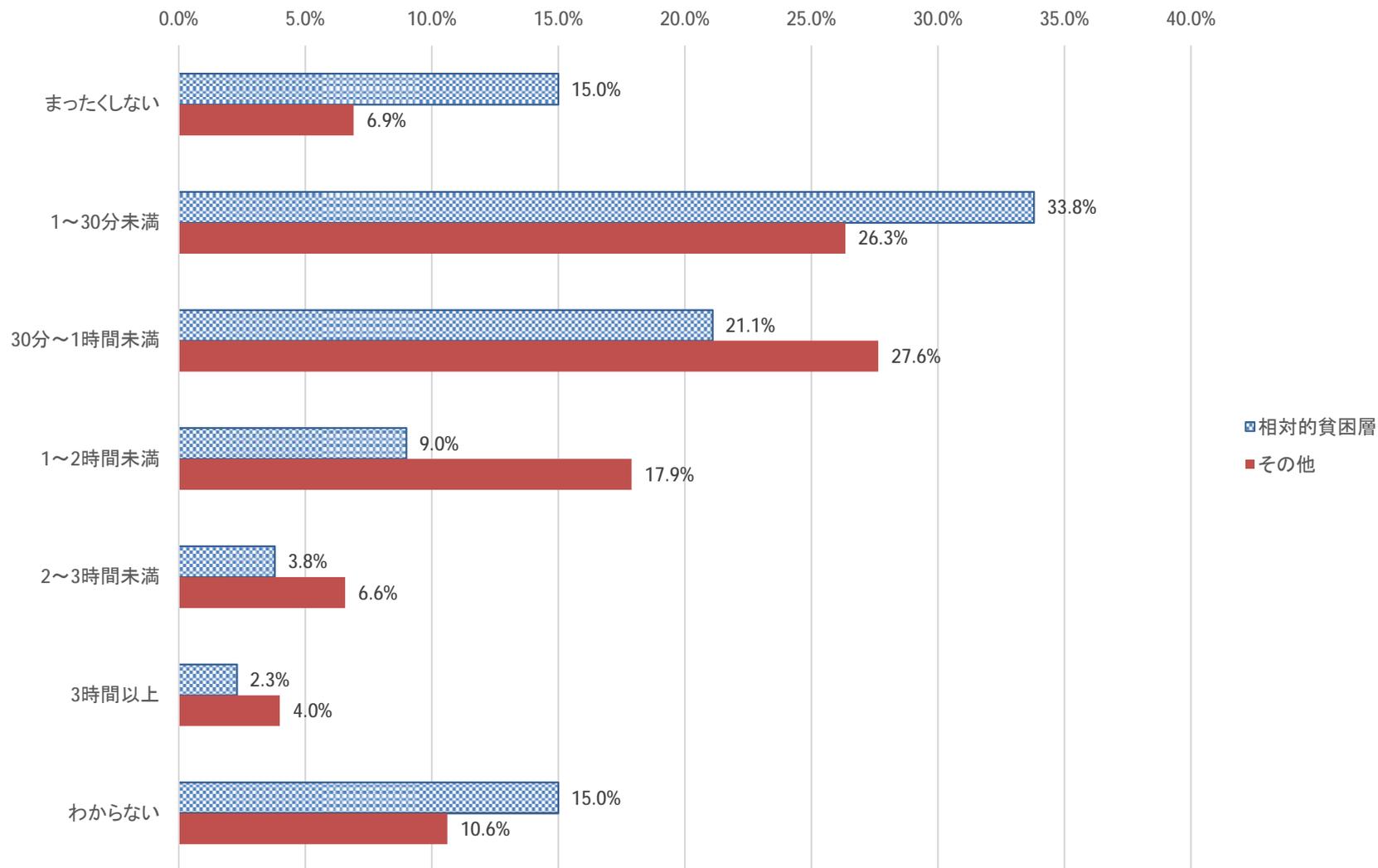


● 休日



2-11 平日授業時間以外に勉強をしている時間(塾などを含む)(就学後)

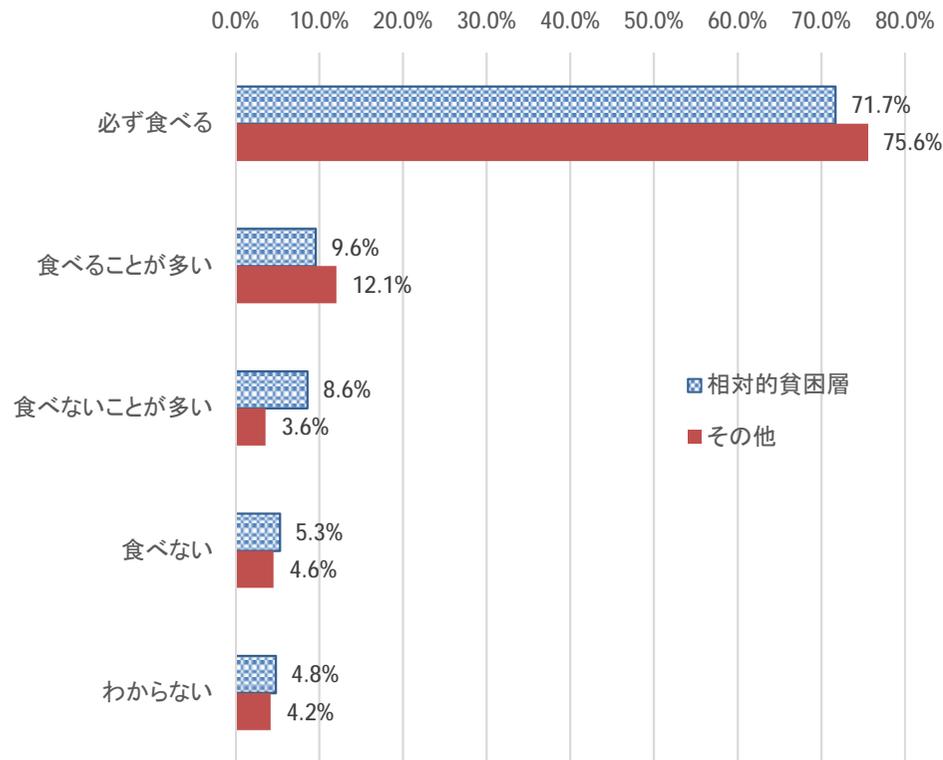
● 相対的貧困層はその他の層と比べ、「まったくしない」「30分未満」の割合が高く、全体の約半数がこれに該当している。



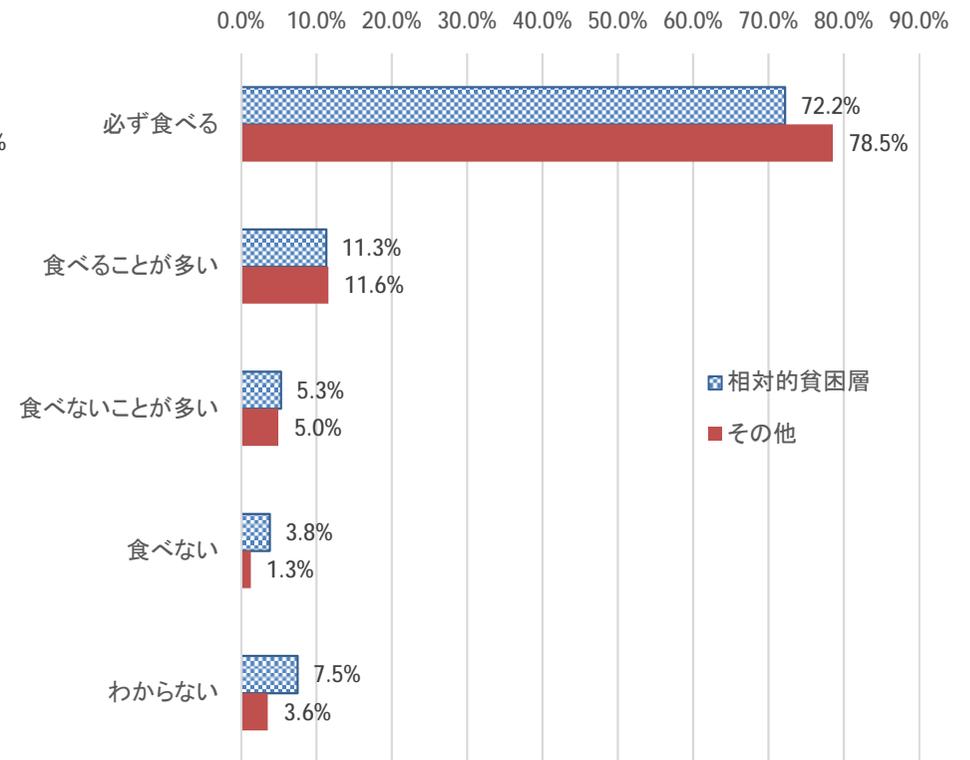
2-12 毎日朝ご飯を食べるか(就学前・就学後)

● 大きな差は見られないが、就学前・就学後とも、相対的貧困層はその他の層に比べ、「必ず食べる」「食べることが多い」の割合が低くなっている。

●就学前



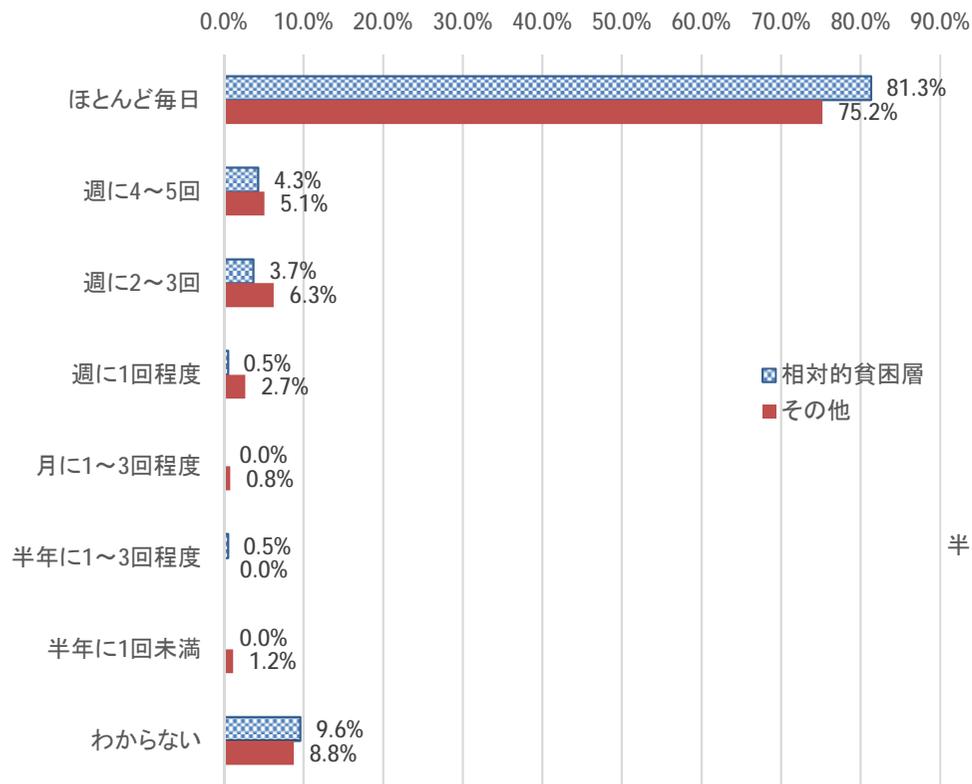
●就学後



2-13 同居している大人の人と一緒に夜ご飯を食べる頻度(就学前・就学後)

● 大きな差は見られないが、相対的貧困層はその他の層に比べ、「ほとんど毎日」の割合が高くなっている。

●就学前



●就学後

